

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科

国語

科目 現代の国語

教科：国語

科目：現代の国語

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～ 8組

教科担当者：（1組：石井）（2組：渡邊）（3組：山田）（4組：渡邊）（5組：石井）（6組：渡邊）（7組：山田）（8組：渡邊）

使用教科書：（「精選 現代の国語」三省堂）

教科 国語

の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」 ・筆者独特の「読書のススメ」について読み取ることを学び、それを踏まえて「偶然性」と「発見」に満ちた自分の体験を振り返らせる。	・筆者にとっての「読書の原体験」を整理させる。 ・「自分の想像」を超えたものに出会うこと の価値、「自分の意識からのつかの間の自由 を味わってみること」の意味を考えさせる。 ・「数々の偶然性」によって、新しい発見を した自分の体験を発表させる。 ・一人1台端末の活用	○			・常用漢字の音訓を正しく読み、主な常用漢 字を文脈に応じて正しく書いている。 ・文章を、表現の技法や語句の使い方など書 き手の工夫を捉えて読んでいる。 ・述べられた事柄から、筆者の考えを理解し ている。	○	○	○	8
	定期考査					○	○		1	
	「水の東西」 ・論旨を正確に追いながら、筆者の 言う文化の相違を読み取らせる。	・段落構成を明らかにして論理展開を理解さ せる。 ・対比されている語句、内容を整理しながら 読解させる。 ・指示語の指示内容、接続詞の意味やはたら きに注意しながら読解させる。 ・提示されている例から、筆者が何を論証し ようとしているのか、その意図や意味を考 え、筆者の観点や思いを読解させる。 ・一人1台端末の活用	○			・主な常用漢字の音訓の正しい使い方を身に つけている。 ・鹿おどしと噴水の違いに着目して、日本人 と西洋人の水に対する考え方を理解し、筆者 の考える日本の文化、日本人の独特の感性に ついて読み取っている。 ・日本と西洋の水の比較から、文化の違いに ついて考えを深めようとしている。	○	○	○	8
	定期考査					○	○		1	
2 学 期	「言語は色眼鏡である」 ・「言語」が「色眼鏡」であるとい う筆者の認識を正確に捉え、私たち が言語にどのように関わっていく必要 があるか、考えを深めさせる。	・言語の、思考や認識の媒体としての機能に 注目させる。 ・「言語は色眼鏡である」という時の「色眼 鏡」とはどのような意味かを考えさせる。 ・多くの具体例の検討を通して、それぞれの 言語の持つ論理の価値には上下の区別がない ことを理解させる。 ・外国語を学ぶ意味について考えさせる。 ・一人1台端末の活用	○			・読むことに必要な概念を理解し、使いこな せている。 ・引用された事柄から、筆者の考えを理解し ている。 ・「言語」は、世界観を反映した「色眼鏡」 であることを理解しようとしている。 ・引用された事例から、筆者の考えを理解し ている。	○	○	○	8
	定期考査					○	○		1	
	「情報と身体」 ・「情報通信技術」がもたらした情 報と身体との乖離についての筆者の認 識を捉え、「情報通信技術」の発達 がこれからの社会にどのような意味 を持つのかを考えさせる。	・評論全体の段落構成を整理するとともに、 指示語の内容や接続詞の役割に着目して論理 構成を理解させる。 ・「情報」に対して「身体」の意味を理解さ せる。 ・「電子的空間と身体的現実との間の往復運 動」に着目して、「情報」社会における「身 体」の意味について筆者の観点や考えを理解 させる。 ・一人1台端末の活用	○			・読むことに必要な文章の組み立て、語句の 意味、語句の用法、表記の仕方について理解 している。 ・語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手 の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み 取っている。 ・電子的空間と身体的現実との間の往復運動 の必要性に着目して、筆者が述べようとする 事柄を理解している。	○	○	○	8
	定期考査					○	○		1	

